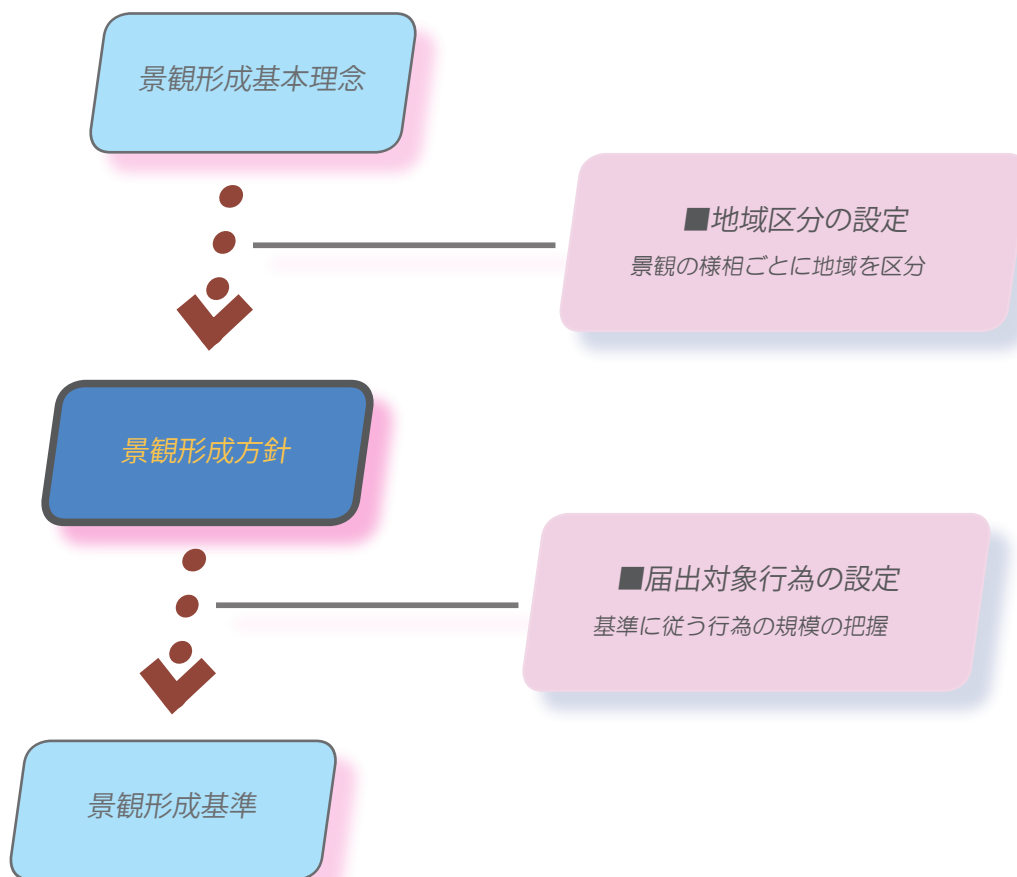


第3章 良好な景観の形成に関する方針

1. 基本理念の実現のために

景観計画では、基本理念を実現するために景観形成に取り組むための方向性を示すものとして、第2章で定めた景観の地域区分ごとに景観形成方針を定め、町の景観形成に取り組んでいきます。

また、第4章に定める、景観形成基準は本章の景観形成方針を踏まえたものとして設定します。



景観形成方針の位置付け

2. 景観形成方針

地域区分ごとの景観形成方針を次ページ以降のように定めます。

(1) 地域区分（面）の方針

■ 山地・森林地域



方針

森林の有する多面的機能を発揮できるよう、持続的な整備を進めるとともに、豊かな自然を感じられる山地・森林景観を目指します。

実現に向けて

■ 町民の役割

- ・ 所有している山林の持続的な手入れや区有林などの整備に積極的に参加します。

■ 事業者の役割

- ・ 森林の機能を損なわないような整備や事業活動を行なうように努めるとともに、人材育成や啓発活動などへ協力をします。

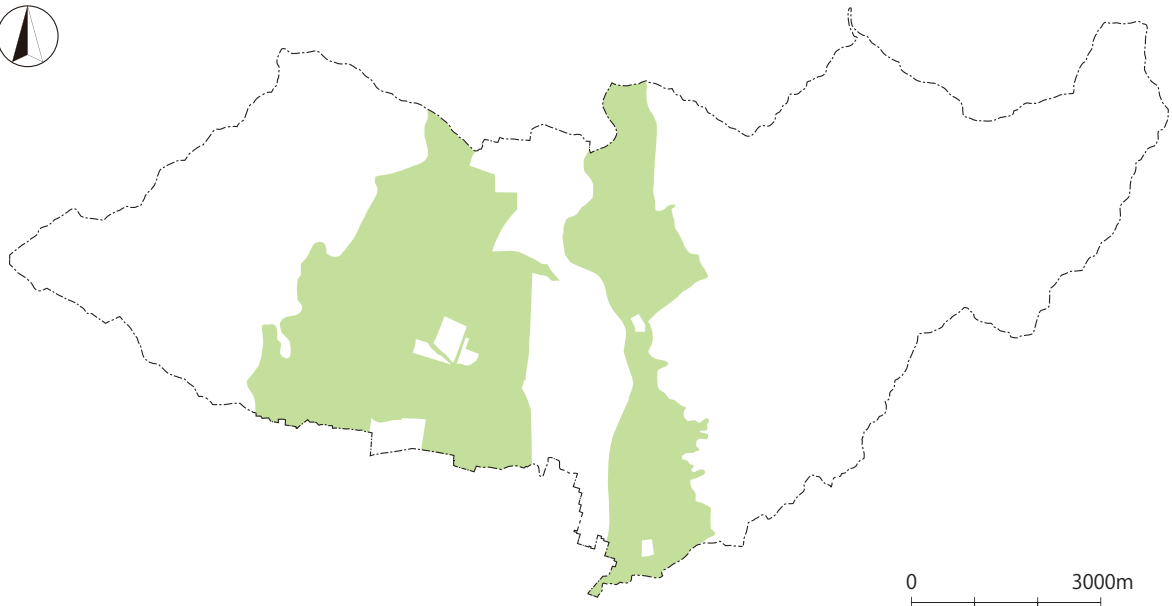
■ 地域の役割

- ・ 森林を地域の貴重な資源として捉え、区有林や財産区林などの整備を積極的に行なうとともに、人材育成や啓発活動などへ協力をします。

■ 町の役割

- ・ それぞれの取り組みを支援するとともに、相互に関連する取り組みに対しては、連携して進められるような組織づくりを進めます。
- ・ 関連計画や諸施策と連携しながら、長期的な視野に立った整備を行ないます。
- ・ 森林との触れ合いの場の提供や、後継者・ボランティアなどの人材育成に努めます。

■ 田園地域



方針

「伊那谷」の特徴の一つである、広々とした農地や、農地と一体となった田園景観を守り育てます。

実現に向けて

■ 町民の役割

- 日々の暮らしにおける、周辺の緑化や維持管理、また地域や町の景観活動に積極的に参加します。

■ 事業者の役割

- 経済活動の際には、周辺の田園景観と調和したものになるように、積極的な提案や事業を行なうよう努めます。

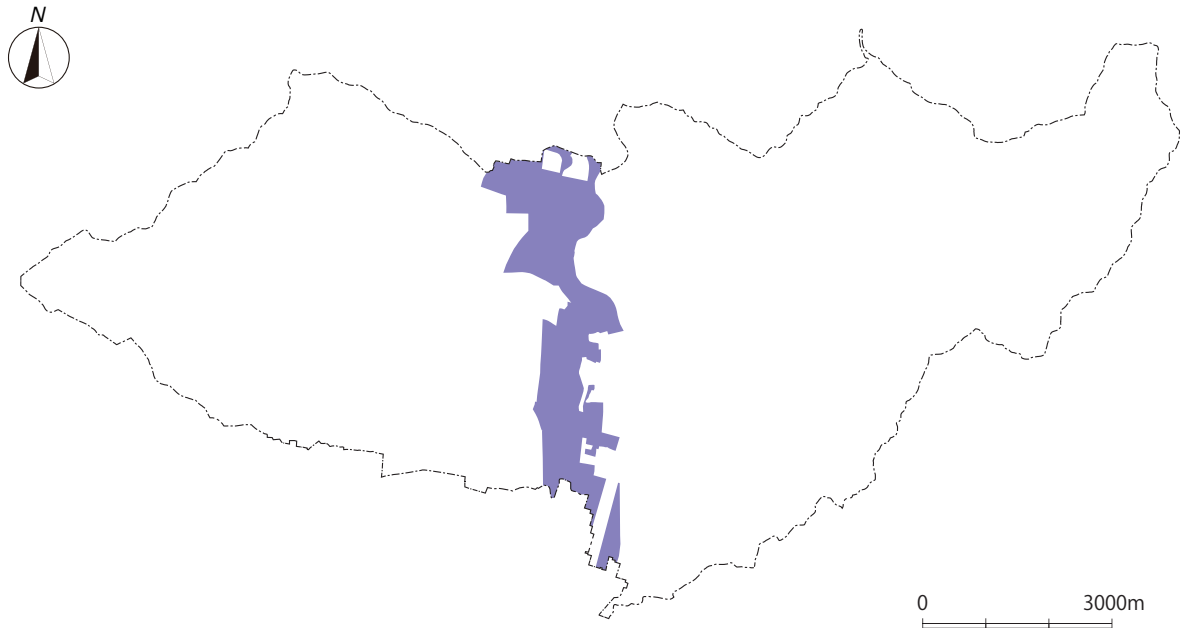
■ 地域の役割

- 良好な田園景観を形成できるよう、地域の景観の特徴を理解し、個人やそれぞれの立場のつながりや活動を町とともにサポートします。

■ 町の役割

- それぞれの取り組みを支援するとともに、相互に関連する取り組みに対しては、連携して進められるような組織づくりを進めます。
- まとまりのある農地を有する地域にあっては、農業振興地域計画と連携した計画的な土地利用により、良好な田園景観を維持していきます。
- 農業体験の場の提供や、後継者・ボランティアなどの人材育成に努めます。

■ 住居地域



方針

落ち着いた佇まいの住宅地となるよう、景観形成を進めます。

実現に向けて

■ 町民の役割

- ・ 隣三軒と協力して、周辺と調和した落ち着いた住居景観の形成に取り組みます。

■ 事業者の役割

- ・ 画一的な事業活動とならないよう、事業地域の景観特性を十分理解した上で事業を行いません。

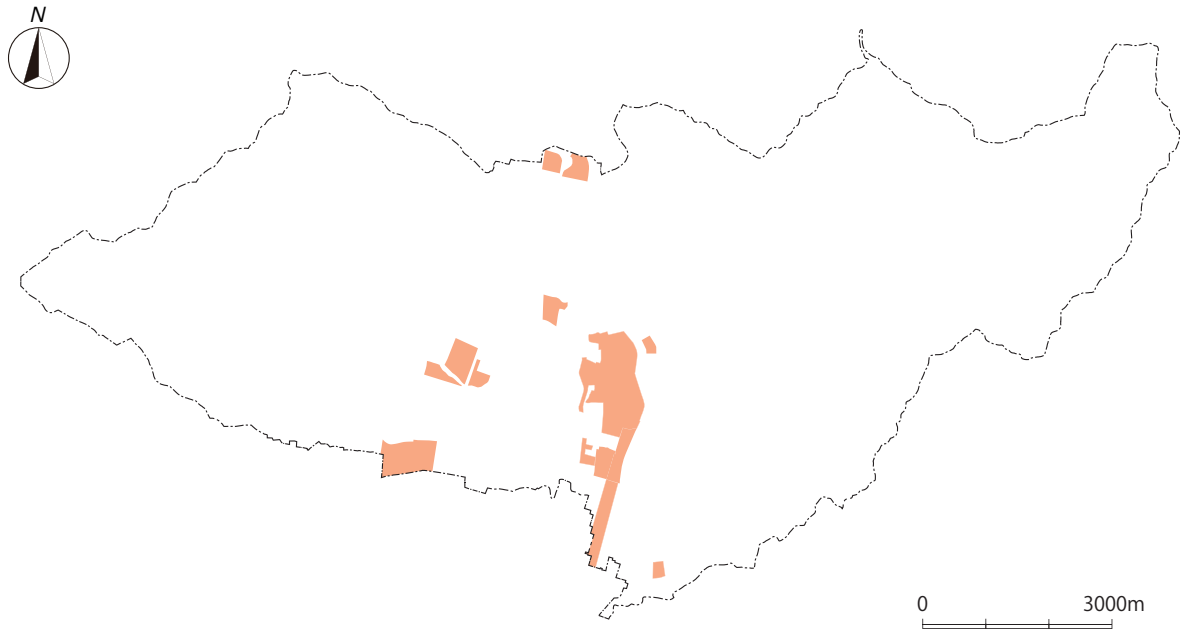
■ 地域の役割

- ・ 地域の歴史・文化を踏まえた上で、景観特性を再認識し、地域としてまとまりのある住居景観を形成します。

■ 町の役割

- ・ それぞれの取り組みを支援するとともに、相互に関連する取り組みに対しては、連携して進められるような組織づくりを進めます。
- ・ 歴史的・文化的に価値があると認められる資源や景観については、保全できるよう支援を行なっていきます。

■ 商工業地域



方針

周辺にある住宅や農地などと調和のとれた景観形成を進めるとともに、活気のある商工業地の景観を目指します。

実現に向けて

■ 事業者の役割

- ・ 事業活動がまち並みを構成する重要な要素の一つであることを自覚し、周辺の景観と調和した景観形成に努めるとともに、賑わいのある商工業地の景観を目指します。

■ 地域の役割

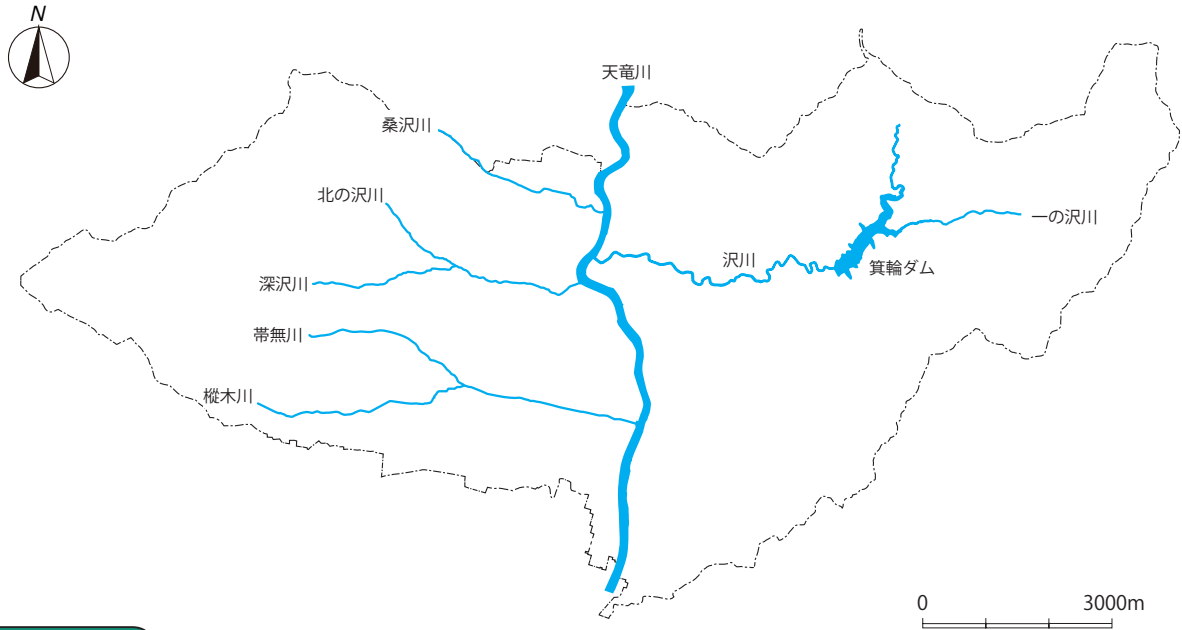
- ・ 個人や事業者と協力して周辺と調和のとれた景観形成に取り組みます。

■ 町の役割

- ・ それぞれの取り組みを支援するとともに、相互に関連する取り組みに対しては、連携して進められるような組織づくりを進めます。
- ・ 上位計画や関連計画との整合性のとれた計画的な土地利用により、良好な商工業地の景観を形成します。
- ・ 空き店舗や空き地などを有効活用し、賑わいのある商工業地の景観形成を図れるような施策を展開します。

(2) 地域区分（軸）の方針

■ 河川



方 針

それぞれの河川特性を活かした景観とするとともに、安全で親しみのある空間としての整備を進めます。

実現に向けて

■ 町民の役割

- ・ 地域や町が主催する河川清掃などの環境活動に積極的に参加し、良好な河川景観の形成に取り組めます。

■ 事業者の役割

- ・ 事業を行なう際には、河川環境に配慮すると共に、景観の連続性や見通しが阻害されることの無いように努めます。

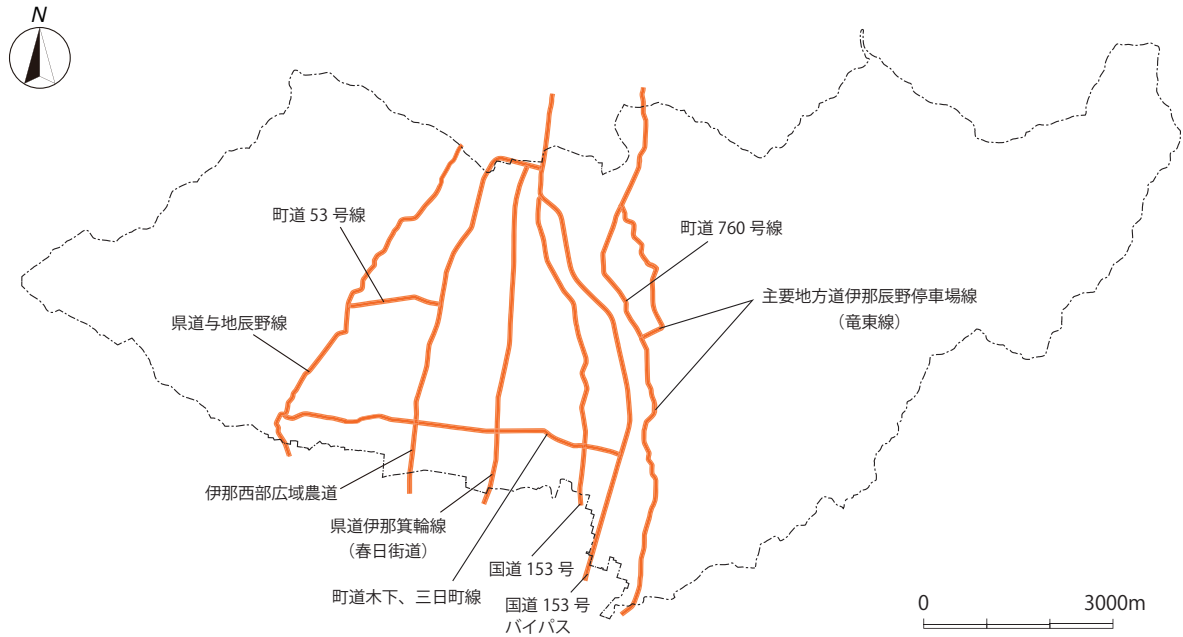
■ 地域の役割

- ・ 河川景観に大きく作用する連続性や水辺環境を保全するために、河川清掃などの環境活動を行ないます。

■ 町の役割

- ・ それぞれの取り組みを支援するとともに、相互に関連する取り組みに対しては、連携して進められるような組織づくりを進めます。
- ・ 河川沿いの整備については、安全性を考慮した上で、水辺環境の保全と魅力的な河川景観となるよう進めます。

■ 沿道



方針

何度も訪れたくなるような、魅力的な沿道を目指して景観形成を進めるとともに、良質なビューポイント^{※1}の保全・創出を行います。

実現に向けて

■ 町民の役割

- 道路側からの見え方や連続性を意識し、調和のとれた良好な道路景観の形成に努めます。

■ 事業者の役割

- 沿道で事業を行なう際には、周辺景観との調和を大切にし、より良好な景観となるよう積極的に事業提案を行なうように努めます。

■ 地域の役割

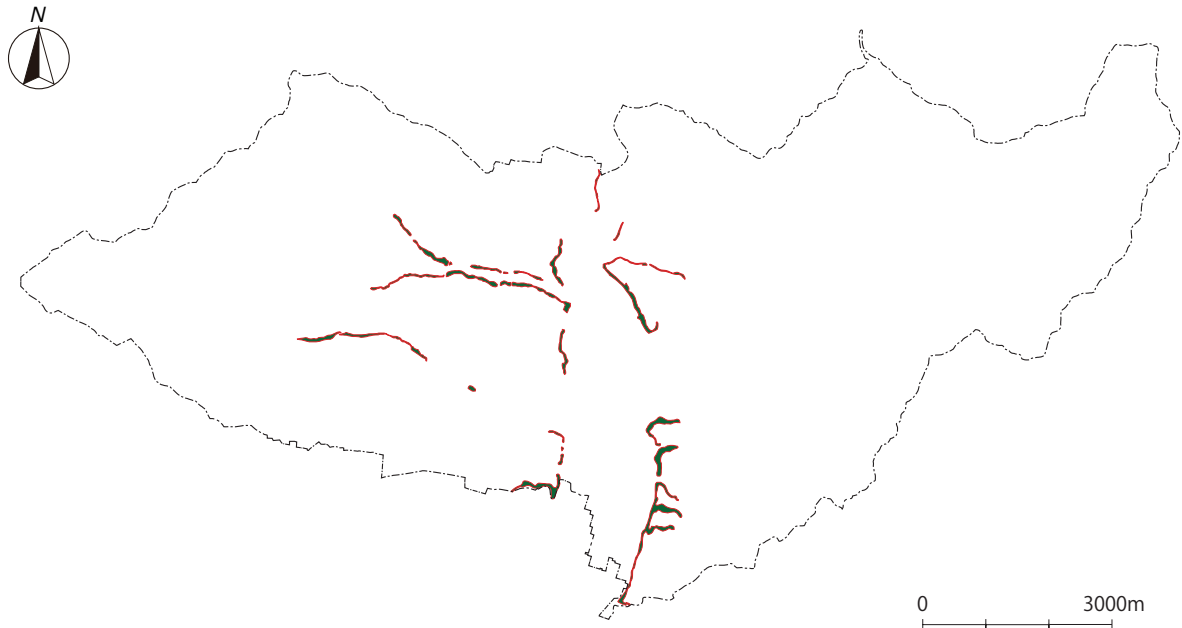
- 連続する沿道景観は地域の魅力の一つとして捉え、より良好な景観となるよう努めます。

■ 町の役割

- それぞれの取り組みを支援するとともに、相互に関連する取り組みに対しては、連携して進められるような組織づくりを進めます。
- 良好なビューポイントとしての資質のある場所については、その魅力がより高まるよう、町民・地域・事業者と協力しながら整備を進めます。

※ 1 眺望の良い場所。「視点場」とも言う。

■ 段丘林



方針

- 段丘林の連続性を損なわないよう、適切な管理により保全していきます。
- 開発を極力ひかえ、保全に努めます。

実現に向けて

■ 町民の役割

- 伊那谷を特徴づける段丘林の魅力を損なわないよう、その整備に協力します。

■ 事業者の役割

- 事業を行なう際には、段丘林の連続性が損なわれないようにし、修景を心がけます。

■ 地域の役割

- 段丘林は地域の資源の一つとして捉え、その整備に協力します。

■ 町の役割

- それぞれの取り組みを支援するとともに、相互に関連する取り組みに対しては、連携して進められるような組織づくりを進めます。
- 森林整備計画に従い、段丘林の適正な管理が行なわれるように、町民・事業者・地域に助言を行ないます。

信州みのわ花街道は長野県南部の県道与辰野線沿線の延長 6km が活動エリアです。国土交通省の日本風景



県道沿いに植栽された花もも

街道に認定されている中部地方の 22 ルートのうち、多くは著名な観光地ロードですが、信州みのわ花街道は、地域ぐるみの取り組みにより、景観づくりが行われています。

私達が汗を流している街道沿いは南アルプス、中央アルプスの名峰が輝く故郷ロードとも言える地域ですが、2005 年に素人の集まりが何色の花が咲くことさえも知らずに、1,680 本の花ももを植栽したのが始まりです。

今では、地域住民、各種団体、サークル、学校、企業 13 団体 130 名ほどがパートナーシップにより、地域住民も楽しみながら、一体となって、おいでいただく来訪者の心を和ますことがこの街道づくりメンバーの心意気になっています。このように、汗とズク^{※1}とアイデアを出しての故郷づくりはまさに協働の町づくりとなっています。

例年開催されている花街道祭りも定着し、多くの方から喜ばれています。さらには端午の節句の時期に街道沿いでひらひらと泳ぐ鯉のぼりは近くの保育園児のアイドルとなり、初秋の赤そば祭りは町の主要イベントの一つにまで成長し、祭りの時期には、週末になると関東・中京方面から多くの観光バスが行き交うようになりました。

また、街道の中程にある展望台は 2 つのアルプスの景観を楽しめるドライバーの憩いの公園となりました。冬には街道沿いのイルミネーションがため池に映る様は神秘的で、街道の風物詩として、この地域の景観に彩を添えています。

こうした山里の街道が生まれ変わり、メンバー以外の地域の皆様が自主的に景観形成を支援し、ご協力をいただいていることも誇りです。さらには大手企業様からの財政支援、信州大学農学部の子づくり応援隊などの若い学生の支援も心強いものです。

赤そば、花もも、スイセン、チューリップ、ヘブンリーブルー、フジバカマなどが植栽された沿道は箕輪西小学校の通学路という、風景街道でも特異なエリアだけに熱いオンリーワンをめざしています。

除草、剪定、消毒などの育成管理。街道、展望台、花畑などの清掃を通じて、おいでいただく来訪者へのおもてなしに皆で汗を拭きながらも、隣接する伊那市や辰野町にアプローチしながら、広域観光の景観形成を一つの視野に入れるのが当面の目指すビジョンです。(信州みのわ花街道推進協議会会長 唐澤 荘介氏)

日本では、2011 年に固定価格買取制度と国・自治体の各種助成策が実施され、2012 年から公共産業向け



住宅近くに設置されたソーラーパネル

設備への全量買取制度が導入されたことをきっかけに、2 年余りでソーラーパネルによる全国の発電計画が 7,000 万 kW を超えました。

「環境にやさしい」ということで、注目された太陽光発電ですが、個人の住宅の屋根に設置されている以外にも、投資目的のビジネスとして多くの計画がされています。

特に長野県は内陸型の気候特性により、年間の晴天率が高いため、県外の事業者が県内にソーラーパネルの設置を計画している例も珍しくありません(左の写真は町内に設置されたもの)。



森林近くへの設置(上写真と同一箇所)

景観的に見ると、ソーラーパネルは「良くない」と感じている人も多く、景観的に優れた場所においては、その設置を条例で禁止するといったこともおきています。

箕輪町景観計画の策定を進めていく中でも話題に上がり、どのような位置付けにするかということで、検討されました。

最終的には、一定規模以上については届出をしてもらうことと、設置にあたっては、周辺に配慮するよう、景観形成基準に盛り込まれました。

※ 1 信州の方言で「やる気」を意味する